

クラウド型デジタルホワイトボードを活用した授業実践の評価 —相互独立性・相互協調性に着目して—

松竹 友佐 (10117101)

1. はじめに

文部科学省(2020)は、「GIGA スクール構想」として1人1台端末と高速大容量ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びを目指している。学校現場においても、GIGA スクール構想の実現に向けて、ICTを活用した実践事例の蓄積が注目を集めている。

瀬戸崎ら(2019)は、大学生を対象に、ICTを活用した協働学習を実践した。その結果、協働学習に対する意識変容には、学習者の個人特性が関与していることが示された。したがって、ICTを活用した協働学習において、個人特性を考慮する必要性を議論する必要がある。一方、協働的な学びのツールとして、Google アプリケーションのクラウド型デジタルホワイトボード(以降 Jamboard とする)が注目されている。Jamboard は、1人1台端末による他者との意見共有が可能な点から、協働学習に効果的だと考えられる。

そこで本研究では、Jamboard を活用した授業を実践し、学習者の個人特性の影響を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

本研究の実践は、「特別の教科 道徳」において、小学6年生の児童28名を対象に実施した。授業者は教職大学院の大学院生であった。本実践の授業では、「自分の特徴を捉え自己実現に向けてよいところを伸ばそうとする心情を育む」ことをねらいとした。授業の冒頭に、学習のめあてを立てるべく、授業者が教材文を範読した。その後、児童らは Jamboard を活用しながら自分や他者の特徴を見つめ、将来どのように活かしていきたいか考えた。図1に Jamboard を使用した活動の様子を示す。

事前に、学習者を個人特性の観点から分類するために、4つの因子から構成される「児童生徒用相互独立的—相互協調的自己観尺度(高田 1999)」による調査を実施した。「個の認識・主張」、「独断性」、「他者への親和・順応」、「評価懸念」という4因子において、高田(1999)は小学5・6年生2,259名の得点の平均値を算出した。本研究では、各因子において算出された平均値を上回る児童をそれぞれの因子の上位群とし、平均値を下回る児童を下位群に分類した。さらに、授業後にアンケート調査を実施し、本実践の授業(8項目)と Jamboard の使用(6項目)に対して、4件法による主観評価の回答を得た。「まったくそう思わない」を1点、「あまりそう思わない」を2点、「ややそう思う」を3点、「とてもそう思う」を4点として、4因子それぞれの上位群と下位群の平均値を t 検定により比較した。



図1. Jamboard を使用した活動の様子

また、授業の感想と Jamboard の使用に関して、自由記述による回答を得た。得られた自由記述の回答はカテゴリーに分類した。

3. 結果・考察

t 検定の結果、4つの因子のうち「独断性」と「評価懸念」の因子において、上位群と下位群の評価に有意な差があった。

図2に「独断性」上位群と下位群における t 検定の結果を示す。本実践の授業に関して、「自分の特徴について新しい発見ができた」、「友達の特徴を伝えることができた」の質問項目において、独断性上位群の平均値が有意に高い、もしくは有意に高い傾向があった。また、Jamboard の使用に関して、「Jamboard を使うのは簡単だった」、「Jamboard があれば集中して考えることができる」の質問項目においても、独断性上位群の平均値が有意に高い、もしくは有意に高い傾向があった。本実践では、Jamboard を個人思考で使用する場面が多かった。具体的には、自分や友達の良いところや特徴を付箋ツールに入力し、整理することで、自分を捉え直すという活動に使用した。したがって、「他者を気にせず自分で考えて行動する」ことが得意な学習者にとって、自分や友達の特徴を表出しやすいアプリケーションであったことが想定される。そのため、自分の特徴を多く挙げられたことが、新たな発見につながった可能性がある。また、入力内容が即時に共有されるため、友達の特徴を伝えることができたことと評価したことが推察される。さらに、学習活動に充実感をもったことが、独断性上位群の Jamboard の使用感における評価が高かったことにも影響を及ぼしたことが示唆された。

なお、自由記述によって得られた回答をカテゴリーに分類した結果、「Jamboard の良さ(13件)」や「他者理解(10件)」、「自己理解(9件)」に関する回答が多く得られた。したがって、本実践のねらいが概ね達成できていたことや、Jamboard の使用に関して学習者らが肯定的な印象をもったことが示された。

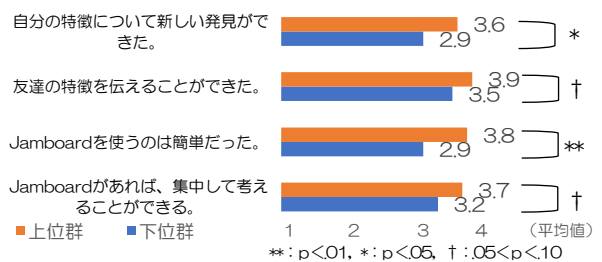


図2. 「独断性」上位群と下位群における t 検定の結果

4. まとめ

本研究では、Jamboard を活用した授業を実践し、独断性上位群から高い評価を得ることが示された。今後の課題は、個人特性と ICT を活用した協働学習との関わりについて、詳細な分析をすることである。

参考文献

瀬戸崎典夫, 中尾早紀, 藤井佑介 (2019): タブレット端末を用いたグループ活動による教員養成課程学生の意識変容—個人特性を要因とした協働学習に対する意識について—, 長崎大学教育学部紀要(教育科学), 第83号, 175-188
(指導教員 中村千秋: 義務教育開発講座)